

修了生代表挨拶

本日はお忙しい中、私たち修了生のためにこのような式をご用意いただき誠にありがとうございます。そして、これまでにコミュニティソーシャルワーカースキルアッププログラム受講生の私たちを支えてくださった東北学院大学学長はじめ地域共生推進機構長、諸先生方、ならびに来賓の皆様のご臨席を賜りましたこと、修了生代表として御礼申し上げます。

私たちは4月の開講から1年をかけてCSWスキルアッププログラム第3期生として153時間の講義を受講いたしました。

プログラムの修了にあたり、今ふりかえってみますとあつという間の1年で、CSWの知識を得ることが一番のベースではありましたが、それに加えて、仕事とは、また自分自身とは・・・学びを通していろいろなことに向き合うことができた時間でもあったと実感しています。

地域包括ケアシステム・地域共生社会の実現、地域課題の解決に向けて・・・私たちはこの1年間、これらの言葉と向き合ってきました。少子高齢化・コミュニティの脆弱化、地域を構成する家族・世帯の多様化が進んでいくことは、既存の制度では支えられない家族世帯の増加を意味しています。私たちが暮らす地域が2025年・2050年どのような地域になるのか？住民一人ひとりが住み慣れた地域で暮らしていく仕組みとつながり作りを学んだ私たちは、データによる裏付けと想像力をフルに駆使し、行政や福祉関係者だけが「共生社会」を考えるのではなく、予測できることを住民や地域の社会資源に投げかけて、一緒に考える機会づくりをすることが求められることを学びました。

これらのことについて、現場で活躍され知識も経験も豊富な講師先生から地域課題の解決、住民参加の必要性、地域におけるコミュニティが果たす役割の重要性など、CSWの役割といった基本となる部分はもちろん、理論、データ、事例等を用い、より実践に近い学びを得たことはとても貴重な経験でした。さらに、互いの考えに触れながらともに悩み、議論し学びあった第3期生の仲間はよき理解者として、これからもつながり続けられる関係性を築くことができたことは本当に宝です。

私たちは今日プログラムを修了しますが、これから2つのことに取り組まなくてはなりません。ひとつは身に着けた知識を実践につなげること。もうひとつは誰もが住みやすい地域の構築を目指す共通の想いをもつCSWスキルアッププログラム1期生、2期生と、これからプログラムを受講する仲間たちと今後も学び続けCSWの土台を作ることです。理解することで終わりではなく、この学びを少しずつでも形にしていきたいと思います。

これまで、コミュニティソーシャルワーカースキルアッププログラムの主催であります東北学院大学をはじめ、宮城県、仙台市、宮城県社会福祉協議会、市町村社会福祉協議会、第1・2期生、私たちに貴重な学びの機会を与えてくださり、惜しみなくご指導・ご鞭撻くださった先生方、プログラム受講に集中できる環境を整えてくださいました事務局の皆様、たくさんの方々に支えていただいたことに対し、この場だけでは言い尽くせない感謝の気持ちを修了生一同感じております。誠にありがとうございました。

結びにCSWスキルアッププログラムの発展をお祈り申し上げ、修了生の挨拶とさせていただきます。

平成31年3月16日

CSWスキルアッププログラム 修了生代表 武田智子